

科目名	小児看護Ⅲ (小児疾患患児の看護)					DP3 DP4	看護高等課程	
学年	1 年	分野	専門 母子看護	時間数	13 時間	担当 教員	寺坂 和代	
科目概要	小児疾患患児の看護は成人の看護とは異なり、成長発達に則した対応が求められる。そのため、小児の診療の介助と看護の基本および特殊技術、特殊な問題をもつ小児の看護、そして主要な症状、疾患症状、疾患に対する看護を学ぶ。							
到達目標	1. 小児の特有な健康障害に対する検査、処置、プレパレーションの方法を理解できる。 2. 小児の成長発達にあわせた看護技術の方法を理解できる。 3. 小児疾患患児の症状や問題に応じた看護について理解することができる。							
回数	単元項目			授業内容			形態	担当 教員
1～6	小児の多様な場における看護			外来・入院・地域・在宅・災害時における小児と家族の看護			講義 演習	寺坂
	小児看護の特殊技術			診察の介助、身体計測（体重・身長・頭囲・胸囲・腹囲）、体温、呼吸、脈拍、血圧の測定、与薬（散剤・水薬・錠剤・カプセル・座薬）、注射（静脈内注射）、採血 穿刺（骨髄穿刺・腰椎穿刺）、採尿・畜尿（尿量測定）、浣腸（催下浣腸・高圧浣腸・こより浣腸）、体温調節、酸素療法（酸素テント）、経管栄養、抑制・固定				
	特殊な問題をもつ小児の看護			安静、隔離、食事制限、牽引中、抑制、手術等の必要な児の看護（プレパレーション）				
	主な症状に対する看護			不機嫌・不活発、啼泣、疼痛、発熱、痙攣、嘔吐、便秘、下剤、脱水、浮腫、発疹、意識障害、黄疸、出血、貧血、呼吸困難感、チアノーゼ				
	主な小児疾患患児の看護			低出生体重児の看護、新生児の疾患と看護、乳児栄養障害と看護、呼吸器系、循環器系、消化器系、血液疾患、感染症、内分泌代謝異常症疾患、泌尿器系、神経疾患、免疫・アレルギー・膠原病疾患、皮膚疾患、眼科疾患、耳鼻咽喉科疾患、口腔外科疾患、小児悪性腫瘍疾患、整形外科疾患、精神疾患患児の看護、				
	小児の救急と看護、災害時の対応			救急処置と看護（異物誤飲・溺水） 災害時の対応				
7	試験（1 時間）						試験	
評価基準	100 点満点とし、6 割以上を合格とする。また、授業時間数の 3 分の 2 以上の出席が必要となる。							
評価方法	出席状況と講義への参加態度、筆記試験などで総合的に評価する。							
教科書	看護学入門 12 小児の看護 必要時、資料等は配布する。							
履修上の 注意点								